

2024年度 入学試験問題



H T J (後期 A 適性検査型)

(50 分)

注 意

- ① 問題は、中の用紙の A 面に一、B 面に二、C 面に三があります。
- ② 解答用紙はこの問題用紙の間にはさんであります。
- ③ 解答用紙には受験番号・氏名を必ず書いてください。
- ④ 答えはすべて解答用紙に書いてください。
 - ・ 答えとして記号を選ぶ問題は、右の【解答例】にならい、すべて解答用紙の記号を○で囲みなさい。また、答えを訂正するときは、もとの○をきれいに消してください。
 - ・ 答えの字数が指定されている問題は句読点、記号（、。」「・）なども一字に数えます。
- ⑤ 試験開始の合図があったら、全てのページが揃っているかを確認してください。

ア
イ
ウ
エ

【解答例】

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

私の一番の基本は人間は生きものだということです。もちろん人間が文化や文明を生み、^aケイザイを豊かにするのも大事だけれど、一番の基本は自分が生きものだということだと思います。それを大事にしないと、本当に生きていると感じることができないと思うので、自分で納得いく生き方をするためには、人間が生きものだと思えることが必要ではないかと思う、それを伝えたいのです。

地球上の生きものが多様であることの意味を理解し、それぞれが一生懸命生きることの大切さを思うことです。みんながバラバラで何の関係もなかったら、アリもいます、ヒマワリも咲いています、キノコがあります、で終わり。でも、どれも細胞^{さいぼう}できていてDNAが入っているという共通性があります。みんな違う^{ちが}ということとみんな同じということがカサ^{かさ}なり合っている。私たちが生きものを見るときの一番の基本です。それを知ること、見つけることはとても楽しいのです。〔あ〕DNAを基本にして生きもの全体を考えると、地球上の生きものの共通性がわかり、おもしろいのです。日常で見えるのは、いろいろな生きものがあるという多様性ですね。だから、研究して生きものの共通性を見つけ出すことは、学問としてやりがいがあるし興味深いことです。そして、アリもヒトも基本的には同じという共通の部分を見ると、ではなぜアリはアリでヒトはヒトなのか、どこから分かれたのかという疑問がまた生まれます。その繰り返しが学問です。生きものの共通性と多様性を考え続けることが大事なのです。

現存の生きものの祖先は1つです。それはいつ、どこで生まれたのかは、まだわかっていませんが、38億年前の地球の海の中には祖先になる細胞^{さいぼう}がいたと思われます。現在の生きものたちは全部38億年のレキシ^{レキシ}を持って生きていくということです。〔い〕でも人間は、学校をつくったりジェット機を飛ばしたり、ほかの生きものができることができません。そのために、つい自分はほかの生きものの上にいると思いがちですが、そうではありません。何でもできる、自分たちだけが進歩していると思いがちですが、そうではありません。生きものの中にいるということを考えて生きていかなければなりません。〔う〕ですから、ほかの生きものから学んだうえで、生き方を考えたほうが新しいことができると思います。

③ これまでの科学は自然を機械のように見てきました。生きもののように見てこなかったのです。17世紀以来、ヨーロッパで始まった研究は「自然は機械と同じ。だから、自然は征服^{せいふく}して管理できる」と考えて科学を進めてきました。その中で人間も機械として考えるようになり、医療^{いりょう}も壊れた機械をなおすような見方になってきました。それは行き詰^つまっていると思います。「科学を進めてはいけない」「新しいものをつくつてはいけない」というのではありません。ただ、私たちもほかの生きものの中にいながら、ほかの生きものができることをやるという基本は忘れないこと。それが人間の知恵^{ちえ}です。〔え〕自然の外にいたいと思ひ、勝手なことをやるとほかの生きものたちに迷惑^{めいわく}がかりますし、私たちも生きていくのは難しくなるでしょう。賢^{かしこ}い選択^{せんたく}が必要です。

(中村桂子『知の発見 「なぜ」を感じる力』による)

*DNAⅡ「デオキシリボ核酸」の頭文字を取った略語で、生きものの遺伝子^{いでんし}の情報を構成する物質。

1 本文中の……線部a～cのカタカナを文脈に合わせて漢字に直し、
ていねいに書きなさい。

2 次の一文は本文中の「あ」「え」のいずれかに入ります。最も
適しているものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

もちろん、その中に私たちもいます。

3 本文中に——線部①とありますが、次のア～エのうち、この言葉
の本文中での意味として最も適しているものを一つ選び、記号を○
で囲みなさい。

- ア 数が多い イ 絶滅^{ぜつめつ}の危機にある
ウ 成長が速い エ 種類が多い

4 本文中の——線部②がさし示している内容を次のようにまとめ
した。に入る内容を、本文中から十七字でぬき出しな
さい。

アリもヒトもということ。

5 本文中に——線部③とありますが、このことによって、人間は自
然をどのように取りあつかってきたと筆者は考えていますか。その
内容を、本文中の言葉を使って三十字以上、四十字以内で書きなさ
い。

6 次のア～エのうち、本文中の内容と合うものとして最も適してい
るものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 私たちが生きものを見るときが一番の基本は、生きものがみん
な違うことだけを考えることだと筆者は考えている。

イ これまでの人間の科学の進め方は間違っているので、人間が新
しいものをつくることを筆者は否定している。

ウ ほかの生きものができないことを人間がやるということを頭
において科学を進めることが大切だと筆者は考えている。

エ ジェット機を飛ばすことができるなど、ほかの生きものよりも
人間はすぐれていると筆者は考えている。

二

六年生の宮谷さんと水野さんは、学校の読書クラブ活動の時間に、俵万智さんの短歌について調べました。次は、二人が調べた【短歌】と、それを見ながら二人の担当の三好先生と交わした【会話】の一部です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【短歌】

A 危ないことしていないかと子を見れば

危ないことしかしておらぬなり

B 木が困る 古くなったら木が枯れる 漢字の国の漢字の話

C 子のドラム ドンドンタツツードンタツツ

「シャーン」のところで得意そうなり

(俵万智『子育て短歌ダイアリー ありがとのかんづめ』により作成)

【会話】

三好先生 宮谷さんと水野さんは、俵万智さんの三つの短歌を調べましたね。調べた中でどんなことを感じ、どんなことがわかりましたか。

宮谷さん 私はAの短歌を読んだとき、作者のユーモアを感じるこ
とができました。この短歌では上の句と下の句が
(I)というくふうがされています。そして、その表

現がとても上手に使われていると思いました。

水野さん 私もそう思いました。その表現のくふうで、短歌をリズムよく読むことができました。

三好先生 子どもを思う親の気持ちも感じられて、とても良い短歌ですね。Bの短歌についてはどうでしょうか。

水野さん 短歌の中に(II)というくふうがされていて、とてもおもしろいと思いました。

宮谷さん 下の句で、子どもが楽しく漢字を学んでいるすがたが浮かんできました。

三好先生 作者は、子どもに漢字を教えたときの体験をもとにこの短歌を作ったと説明しています。その後、作者が子どもに漢和辞典をじまん気に見せたら、子どもはとてもほしがったそうです。

水野さん 作者が短歌の中に書いている「漢字の国」とは、漢和辞典のことをたとえた表現とも考えられますね。

三好先生 それでは、Cの短歌をどのように感じましたか。
宮谷さん 私は今までにこのような短歌を見たことがなかったので、

(III)ことがとてもめずらしく感じました。
水野さん 子どもがドラムをたたいているすがたが、上の句でとてもうまく表現されています。

宮谷さん そうです。そして、最後にシンバルをたたいたときの子どもの得意げな顔が目にかんできます。この短歌にも、母親が子どもを(IV)目で見守っていることが感じられます。

三好先生 二人は、俵万智さんの短歌からさまざまなことを感じ取っていますね。それでは、私からも俵万智さんの短歌を紹介^{しょう}します。

D 前世は海草なのかと思うまで

ブルが好きでブランコが好き

水野さん 子どもが夢中になっていることについて書いた短歌ですね。とてもおもしろいです。

宮谷さん 「前世は海草なのかと思うまで」という表現は「前世は海草ではないかと思うくらいに」という意味ですか。

三好先生 そうですね。そして、「前世は海草でないかと思うくらい、私の子どもは、**V**とゆらりゆらりとゆれることが好きだ」と書いているのです。

水野さん この短歌にも、母親と子どものほのぼのとした関係性を感^{かん}じることができました。

1 次のア～エのうち、【会話】中の——線部「手」の漢字の成り立ちとして最も適しているものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 象形文字
イ 指事文字
ウ 会意文字
エ 形声文字

2 次のア～ウのうち、【会話】中の（Ⅰ）（Ⅱ）（Ⅲ）に入れるのに最も適している言葉をそれぞれ一つずつ選び、記号を○で囲みなさい。ただし、（Ⅰ）（Ⅱ）（Ⅲ）に同じ記号は入りません。

- ア 音を文字で表現している
イ 言葉あそびを取り入れる
ウ 同じ言葉で始まる

3 次のア～ウのうち、【会話】中の……線部 a～c の言葉の種類として最も適しているものをそれぞれ一つ選び、記号を○で囲みなさい。ただし、a～c に同じ記号は使いません。

- ア 漢語 イ 和語 ウ 外来語

4 【短歌】中の——線部「木が困る」とありますが、筆者は「木」はどうなったから「困る」と言っているのですか。十字以上、二十字以内で書きなさい。

5 次のア～エのうち、【会話】中の **IV** に入れるのに最も適している言葉を一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア あきれたような イ あたたかい
ウ 悲しそうな エ きびしい

6 【会話】中の **V** にあてはまる言葉を、十字以内で考えて書きなさい。

三

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「働く」という行為は、人間にとって何なのであろう。

「金を稼ぐ行為」と言い切ってしまうばそれまでかもしれないが、

「A」と感じる人も多いのではないか。近年では「働き方」が政治の課題にあがるようになってきているが、日本人の労働観はキリスト教文化圏や中華圏の人々とも異なるユニークなものに映る。

「日本人の働き方」を考える時、私は日本独特の「職人文化」こそが、その象徴的な存在であり、そこに多くの示唆が含まれているように思う。^①職人たちの生き方や仕事との向き合い方の中には、万人が共鳴し得る様々な人生訓が凝縮されているのではないか。

本物へのこだわり。

*^① ^① 妥協なき姿勢。

そこから生ずる苦勞と楽しみ。

高い美意識に裏打ちされた「職人道」において研鑽された知恵や工夫、^{*}識見、価値基準などは、世俗を生きる上でのヒントになり得るはずである。

(中略)

「ものづくり大国」と呼ばれる日本。

古来、日本には職人を軽んじる文化がなかった。江戸時代には大工、左官、仕事師(鳶)が「華の三職」と呼ばれて人気を集めた。

「職人技」「職人芸」「職人肌」「職人氣質」といった日本語は、極めて肯定的な響きを持って使用される。「ものをつくる人」への敬意

は、日本人の中に自然と備わっている。

そんな土壌の中で、日本独特の職人文化は醸成された。

昨今ではそんな日本の職人文化が、海外から高く評価されている。職人たちによって連綿と伝承されてきた日本の伝統文化は、人やモノや情報が国境を越えて加速度的に行き来する時代の中で、より注目を集める存在となった。

I 現在、日本は観光立国を掲げている。インバウンドの効果が出ている中、訪日する観光客の多くが、

「日本の伝統文化を知りたい」

と口を揃える。日本各地の職人たちは、そんな声をどのように受容しているのだろうか。

その一方、そもそも私たち日本人自身が、地域の伝統文化について充分な知識を持っていないという憂慮すべき一面もある。外国人旅行者から日本の伝統文化について聞かれ、答えに窮した経験を持つ方も少なくないであろう。

しかし、そのような現状はあまりにも「もったいない」。自国の文化を適確に理解し、認識を深めることは、豊かな国際社会を育むための第一歩にも繋がる。

(早坂隆『現代の職人 質を極める生き方、働き方』による)

*示唆||それとなく知らせること。ほのめかすこと。

*凝縮||内容を一点に集中させること。

*妥協||問題を解決するために、不本意ではあるが自分の考えを取り下げること。

*研鑽||深くきわめること。

*識見||物事を正しく見きわめる力。

*世俗＝世の中。

*土壤＝比喩的に、ものごとが発生したり育ったりするものになるもの。土台。

*醸成＝ある状態を徐々に作り出すこと。

*連綿＝切れ目なく長い間。

*インバウンド＝外から中へ入ってくるということ。外国人旅行者の意味などに使われる。

*受容＝受け入れること。取り入れること。

*憂慮＝心配すること。

*窮した＝困った。行きづまった。

1 次のア～エのうち、本文中の **A** に入れるのに最も適している言葉を一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア まったくその通りだ イ 考える意味がない
ウ よくわからない エ それだけではない

2 本文中の——線部①について、筆者が考える職人のものづくり方について次のようにまとめました。 **あ** に入る内容を、本文中の言葉を使って、十字以上、二十字以内で書きなさい。

職人たちは本当にすぐれたものをつくるという強い意志をもち、決して妥協することなく、 **あ** ものをつくり上げていく。

3 本文中の——線部②「職人を軽んじる文化」について、これと反対の意味を表す、次の文の **□** に入る言葉を、本文中から十三字でぬき出しなさい。

□ を持つ文化

4 次のア～エのうち、本文中の **I** で示した部分を説明したものとして最も適しているものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 直前までに述べられていた内容から話題を転換して、海外の注目に困惑している職人のすがたを説明している。

イ 直前の段落で述べられた話題に対する反論として、観光立国としての日本の成功について言及している。

ウ 直前の段落で述べられた話題のつながりとして、海外での日本の職人文化の評価の高まりについて説明している。

エ 直前の段落で述べられた内容をさらに深めるために、日本の職人文化が消滅の危機にあることが説明されている。

5 本文中の——線部③について、筆者が「もったいない」と考える内容を次のようにまとめました。 **X** に入る言葉を、十九字でぬき出しなさい。また、 **Y** に入る内容を、本文中の言葉を使って、十五字以上、二十五字以内で書きなさい。

日本人が **X** ことは豊かな国際社会を育てていくための第一歩になる。しかし、それができておらず、外国人旅行者に **Y** という現状は非常にもったいないことである。